

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

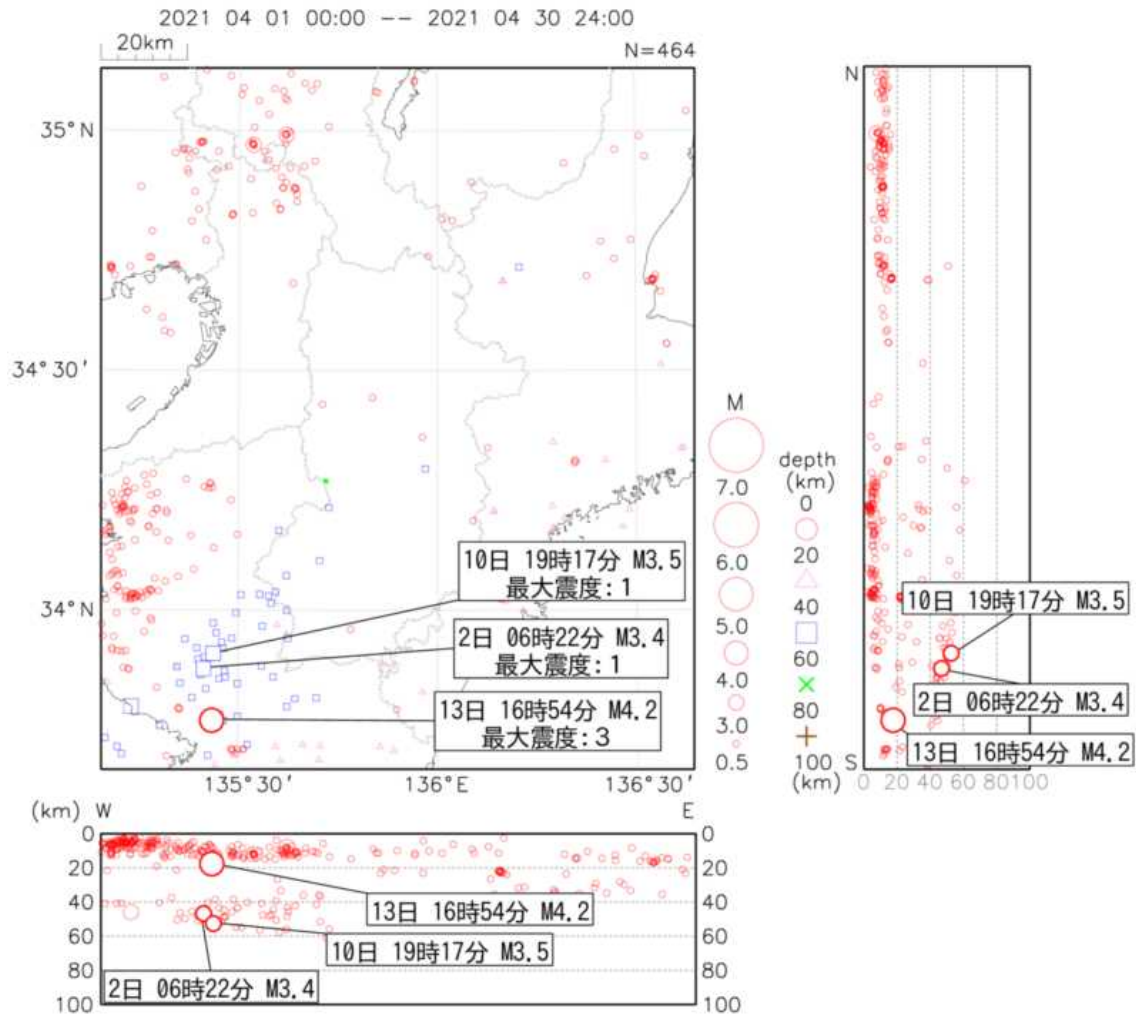
※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2021年4月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

2日 06時 22分 和歌山県北部の地震（深さ47km、M3.4）により、奈良県内では十津川村で震度1を観測したほか、和歌山県でも震度1を観測しました。

10日 19時 17分 和歌山県南部の地震（深さ53km、M3.5）により、奈良県内では吉野町・黒滝村・天川村で震度1を観測したほか、和歌山県でも震度1を観測しました。

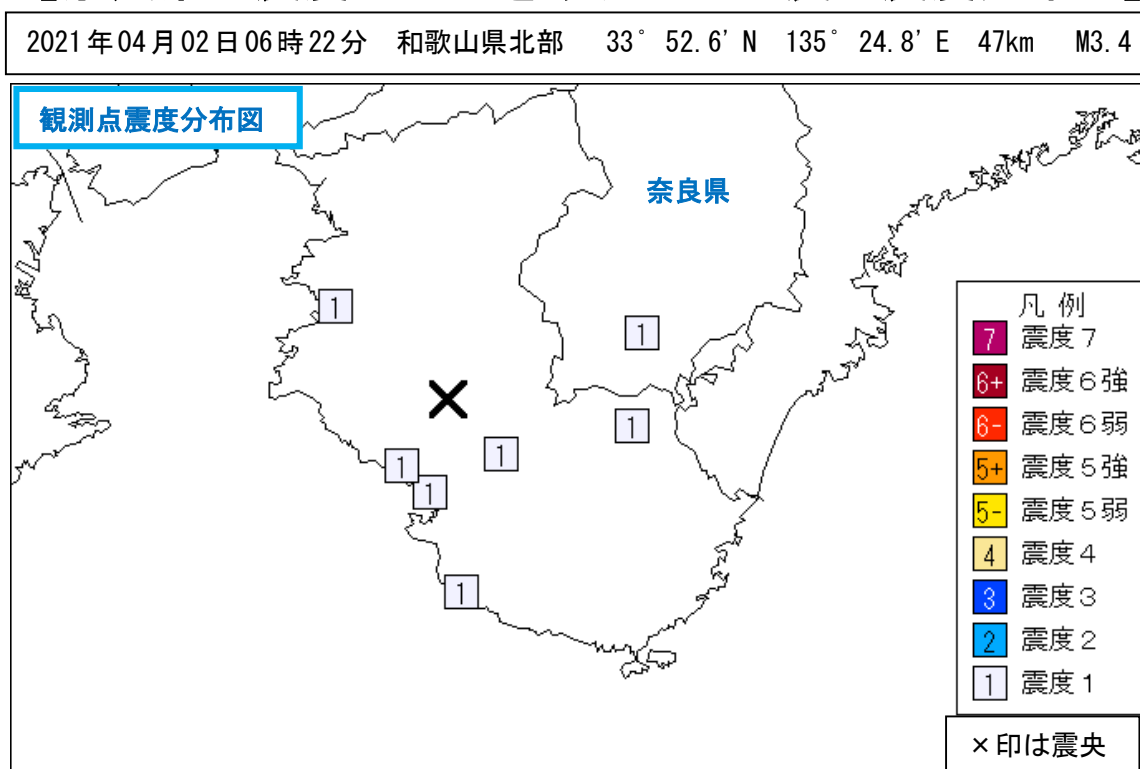
13日 16時 54分 和歌山県南部の地震（深さ18km、M4.2）により、奈良県では天川村・野迫川村・十津川村で震度2を観測したほか、三重県・奈良県・大阪府・和歌山県・兵庫県・徳島県で震度3～1を観測しました。

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度(奈良県内のみ記載)					
2021年04月02日06時22分	和歌山県北部	33° 52.6' N	135° 24.8' E	47km	M3.4
震度 1 : 十津川村小原 *					
2021年04月10日19時17分	和歌山県南部	33° 54.5' N	135° 26.3' E	53km	M3.5
震度 1 : 吉野町上市 *, 黒滝村寺戸 *, 天川村洞川, 天川村沢谷 *					
2021年04月13日16時54分	和歌山県南部	33° 46.1' N	135° 26.1' E	18km	M4.2
震度 2 : 天川村洞川, 天川村沢谷 *, 野迫川村北股 *, 十津川村小原 *					
震度 1 : 桜井市初瀬, 五條市本町 *, 五條市大塔町辻堂 *, 御所市役所 *, 御杖村菅野 * 高取町観覚寺 *, 吉野町上市 *, 黒滝村寺戸 *, 下北山村寺垣内 *, 上北山村河合 * 奈良川上村迫 *, 東吉野村小川 *, 葛城市柿本 *, 宇陀市大宇陀迫間 *					

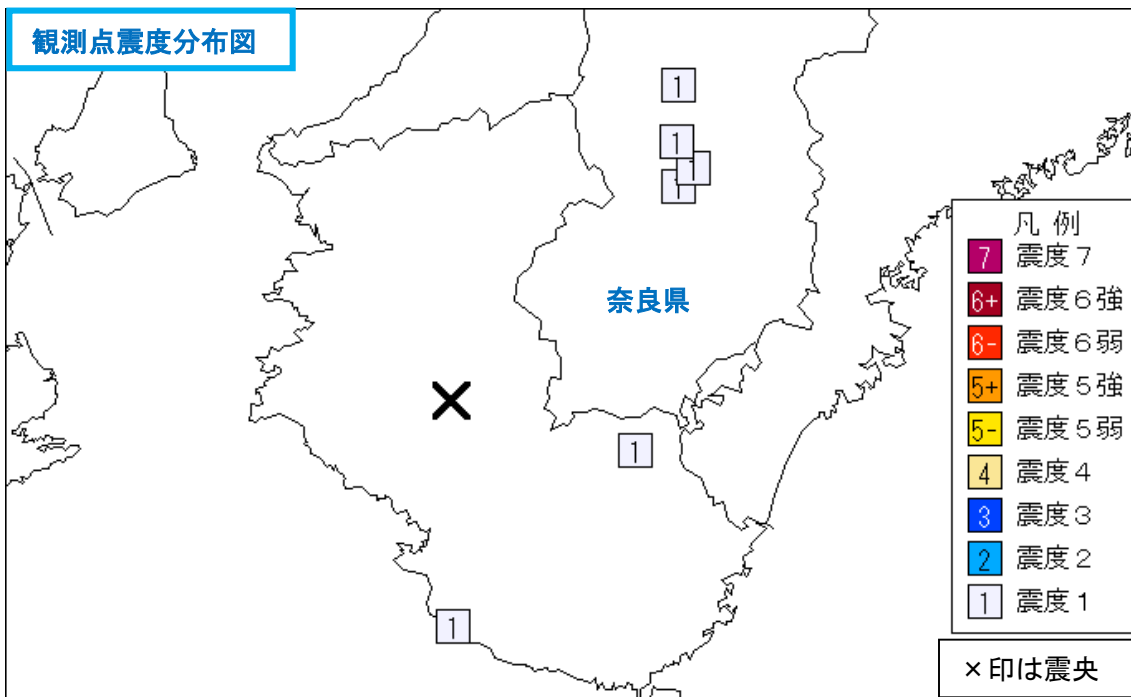
*印は地方公共団体等の震度観測点です。

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】



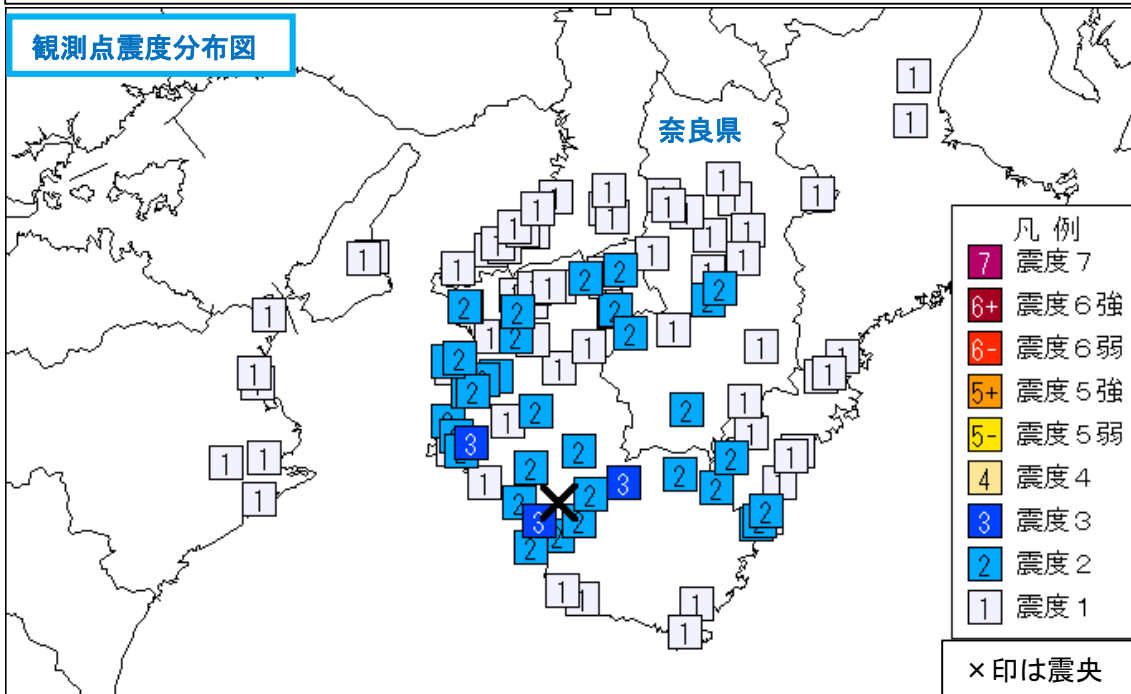
2021年04月10日 19時17分 和歌山県南部 33° 54.5' N 135° 26.3' E 53km M3.5

観測点震度分布図



2021年04月13日 16時54分 和歌山県南部 33° 46.1' N 135° 26.1' E 18km M4.2

観測点震度分布図



【地震一口メモ】

～南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会について～

気象庁では、南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価した結果を「南海トラフ地震に関連する情報」として発表するにあたり、有識者から助言をいただくために「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催しています。



評価検討会の様子（2019年1月10日撮影）

評価検討会には、臨時の会合と定例の会合があります。臨時の会合は観測データに異常が現れた場合に南海トラフ

地震との関連性を緊急に評価するために開かれ、定例の会合は平常時から観測データの状況を把握するために原則毎月1回開催しています。

評価検討会の委員は、現在6名の有識者で構成されています。また、南海トラフ及びその周辺地域における気象庁以外の機関の観測データについて説明を受けるため、関係機関（国土地理院、海上保安庁、防災科学技術研究所、海洋研究開発機構、産業技術総合研究所）にも評価検討会に参画いただいています。

5月12日に定例の評価検討会が開催され、調査結果が「南海トラフ地震関連解説情報」として同日報道発表されました。今回の評価検討会では、2020年夏ごろから紀伊半島西部などで観測されている地殻変動などが評価検討されました。これらは、プレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定され、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。その他検討された観測結果を含め総合的に判断すると、「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時^(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」と評価されました。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8～M9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70～80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

【参考】南海トラフ地震関連解説情報について（令和3年5月12日気象庁報道発表）

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2105/12b/nt20210512.html>

【参考】長期的ゆっくりすべり、短期的ゆっくりすべり、深部低周波地震（微動）

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/nteqword.html>

【参考】南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会とは

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/assessment.html>

本紙は奈良地方気象台のホームページでも過去5年間程度分掲載しています。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>

